

令和7年1月10日

## 京都の文化向上に寄与された17名を表彰 ～「第43回京都府文化賞」受賞者の決定について～

- 京都府では、京都の文化の向上に寄与された方を称えるため、昭和57年度から「京都府文化賞」を創設しており、今年度は「特別功労賞」5名、「功労賞」8名、「奨励賞」4名に賞を授与します。
- 令和7年1月30日（木）に京都ブライトンホテルにて授賞式を開催しますので、当日の取材をお願いします。

### 1 京都府文化賞 受賞者 17名（敬称略） ※詳細は別紙

<p>特別功労賞 5名</p> <p>※文化芸術活動において顕著な業績をあげられ、文化の高揚に多大の功労があった方に授与</p>	<p>化学者</p> <p>経済学者</p> <p>料理人</p> <p>染色家</p> <p>美術家</p>	<p>北川 進<small>きたがわ すずむ</small></p> <p>佐和 隆光<small>さ わ たかみつ</small></p> <p>高橋 英一<small>たかはし えいいち</small></p> <p>五代 田畑 喜八<small>たばた きはち</small></p> <p>森村 泰昌<small>もりむら やすまさ</small></p>
<p>功労賞 8名</p> <p>※長年の文化芸術活動を通じ、文化の向上に功労があった方に授与</p>	<p>日本画家</p> <p>画家</p> <p>大蔵流狂言方</p> <p>美術家</p> <p>ソロパーカッションニスト</p> <p>彫刻家</p> <p>小説家</p> <p>木工芸作家</p>	<p>大野 俊明<small>おおの としあき</small></p> <p>児玉 靖枝<small>こだま やすえ</small></p> <p>十四世 茂山 千五郎<small>しじゅうよ しばやま せんごろう</small></p> <p>高橋 匡太<small>たかはし きょう た</small></p> <p>イサオ・ナカムラ</p> <p>西野 康造<small>にし の こうぞう</small></p> <p>万城目 学<small>ま き め まなぶ</small></p> <p>宮本 貞治<small>みやもと ていじ</small></p>
<p>奨励賞 4名</p> <p>※新進の芸術家等で、文化芸術活動における業績が特に顕著である方に授与</p>	<p>ヴァイオリニスト</p> <p>美術作家</p> <p>陶芸家・現代美術家</p> <p>美術作家</p>	<p>石上 真由子<small>いしがみ ま ゆ こ</small></p> <p>川田 知志<small>かわた さとし</small></p> <p>西條 茜<small>さいじょう あかね</small></p> <p>山本 雄教<small>やまもと ゆうきょう</small></p>

### 2 授賞式

- 日 時：令和7年1月30日（木）午前11時から11時40分まで
- 会 場：京都ブライトンホテル1階「カディコート」（京都市上京区新町通中立売）
- 出席者：受賞者及び同伴者、来賓（京都府議会議長等）（約100名）
- 授与者：京都府知事 西脇 隆俊にしわき たかとし

#### 【本報道発表に関するお問合せ】

文化生活部文化芸術課 課長 駒寄 電話 075-414-4216  
主幹兼係長 須田 電話 075-414-4231



第43回京都市文化賞受賞者紹介

別紙

受賞者の特徴等	<p>[特別功労賞] 将来の環境・資源問題に革命をもたらすと言われる「多孔性配位高分子」研究の第一人者である北川進氏、計量経済学を地球温暖化対策に応用した経済学者の佐和隆光氏、「京料理」の国の登録無形文化財登録にも尽力された京料理界のトップランナーの高橋英一氏、江戸・文政時代から続く田畑喜八の名跡を五代目として継承する染色家の田畑喜八氏、古今東西の名画、往年の名優や歴史上の人物に自らが扮するセルフポートレート制作に取り組む日本を代表する美術家である森村泰昌氏の5名が受賞。</p> <p>[功労賞] 「やまと絵」の表現技法に関心を寄せ、日本画の真髄を追求し続けている日本画家の大野俊明氏、大蔵流狂言の名門・茂山千五郎家を継承し、一門の“扇の要”として、柔軟な感性で狂言の新たな可能性に挑み続けている大蔵流狂言方の十四世茂山千五郎氏、ドイツを拠点にソリストとして、世界中で活躍されながら、カールスルーエ音楽大学で後進の育成に力を注ぐソロパーカッションイサオ・ナカムラ氏、昨年1月に直木賞を受賞された万城目学氏ら8名が受賞。</p> <p>[奨励賞] 医師資格を持つ多才なヴァイオリニストとして注目を集める石上真由子氏、一円玉など身近な日常に存在するものを取り入れた独自のスタイルで従来の枠を越えた表現の可能性を探究する美術作家の山本雄教氏ら4名が受賞。</p>
---------	---

	氏名	受賞者紹介	
特別功労賞	北川 進	化学者	環境・資源問題に革命的な変化をもたらす材料として注目される「PCP/MOF(多孔性配位高分子)」の研究を行い、世界で初めてPCP/MOFの無数の孔に大量の気体を取り込めることを立証するなど、世界から高く評価されている。
	佐和 隆光	経済学者	「計量経済学」で世界的な業績を上げ、地球温暖化対策の経済的影響を分析するなど、経済学者として実社会の課題に取り組んだ他、これからのビッグデータ時代を見据えた人材養成における先駆的業績が高く評価されている。
	高橋 英一	料理人	本場の日本料理を正しく伝えたいという思いから設立した「日本料理アカデミー」では、初代会長としてフランスへ赴き現地のシェフに研修を行うなど、日本の技と心の発信に寄与。「京料理」の国の登録無形文化財登録にも尽力した。
	五代田畑 喜八	染色家	文政時代から続く京友禅の染色家「田畑喜八」の名跡を五代目として継承。会長を務められた京都伝統工芸士会連合会では京都の伝統工芸界の発展に寄与したとともに、自身も染物の技を追求し、伝統を守りながら流行も取り入れ、今もなお新たな挑戦を続けている。
	森村 泰昌	美術家	約40年にわたって、「私」という普遍的なテーマで、古今東西の名画、往年の名優や歴史上の人物を題材としてセルフポートレート制作に取り組み、日本を代表する美術家として国内外で高い評価を獲得している。
功労賞	大野 俊明	日本画家	日本画の絵の具の美しさを際立たせる表現にこだわり、自然と対話して描かれた風景画は、透明感のある線をはじめ、古典と丹念に向き合う中で見出した純粋な色彩で彩られる。また、「やまと絵」の表現技法にも関心を寄せるなど、日本画の真髄を追求し続けている。
	児玉 靖枝	画家	描くことで「存在の確かさ・不確かさ」や「世界へのまなざし」を掴もうとする思いから、外の世界との「接点」として具象画を描く。現在は、従来のパターンをあえて封印し、全く異なるアプローチを模索する試みを続ける他、芸術を志す多くの後進の指導にも尽力している。
	十四世茂山 千五郎	大蔵流狂言方	江戸初期から約400年続く大蔵流狂言の名門・茂山千五郎家を継承。ジャンルや年代を超え、皆さんに和んでもらえる狂言を目指し、それぞれ個性豊かで活動も多彩な一門の“扇の要”として、柔軟な感性で狂言の新たな可能性に挑み続けている。
	高橋 匡太	美術家	まちのランドマークとなる建造物や空間に光の表現を付加する作品は、屋外における映像投影のパイオニアとして高く評価される。また、「ひかりの実」など観客とともに創造の喜びを分かち合えることができる表現を、楽しみながら模索している。
	イサオ・ナカムラ	ソロパーカッション	ドイツのフライブルク国立音楽大学ソリスト科を卒業し、カールスルーエ音楽大学の教授に就任。後進の育成に力を注ぐとともに、ソリストとしての評価と名声を高め、世界各国の音楽祭に出演するなど音楽のジャンルを超えた活躍で高く評価されている。
	西野 康造	彫刻家	繊細かつ複雑に組み上げた金属造形が、空気の流れを取り込んで悠々と動くスケールの大きな作品で知られる。自然現象から着想を得た独自の表現は世界からも注目され、ニューヨークの4ワールドトレードセンターのアートワークにも起用される。
	万城目 学	小説家	奇想天外な“万城目ワールド”は映画やドラマにもなり爆発的な人気を博す。時を経て街の風景は変わっても、京都ならではの空気感や世代を越えて受け止められるという体感をもとに書き上げた『八月の御所グラウンド』は令和6年に直木賞を受賞。
宮本 貞治	木工芸作家	琵琶湖の水面の波紋の美しさを木に表現するという着想から、独自の表現方法を確立。「流紋」「波紋」など、水の動きをモチーフとした作品群は、おおらかさと洗練さを併せ持つ作品として、高く評価されている。	
奨励賞	石上 真由子	ヴァイオリニスト	8歳でローマ国際音楽祭のオーディションに合格、高校2年で日本音楽コンクールで2位を獲得。現在は、エネルギーあふれる表現力豊かなソリストとして全国的に活躍する、医師資格を持つ多才なヴァイオリニストとして注目を集める。
	川田 知志	美術作家	描かれた空間と不可分な存在である壁画を、ストラップ技法により移動させ、別の空間に置くことで元の空間の記憶を内包した鑑賞物として成立させた作品を制作し、注目を集めている。素材や技法に関する研究でも精進を続け、日々新たな挑戦を続けている。
	西條 茜	陶芸家・現代美術家	「身体」をめぐるテーマを核に作品を制作。近年は息を吹き込むなどパフォーマティブな要素を取り入れた作品を精力的に制作。直接触れて、身体と作品とが繋がることで生まれる新たな表現で注目されている。
	山本 雄教	美術作家	伝統的な日本画の技法を学ぶ一方で、従来の枠を越えた表現の可能性を探究。一円玉やブルーシート、米粒といった、身近な日常に存在するものを取り入れた独自のスタイルの作品が注目されている。

第43回京都市文化賞受賞者紹介

	氏名	受賞者紹介	
特別功労賞	北川 進	化学者	環境・資源問題に革命的な変化をもたらす材料として注目される「PCP/MOF(多孔性配位高分子)」の研究を行い、世界で初めてPCP/MOFの無数の孔に大量の気体を取り込めることを立証するなど、世界から高く評価されている。
	佐和 隆光	経済学者	「計量経済学」で世界的な業績を上げ、地球温暖化対策の経済的影響を分析するなど、経済学者として実社会の課題に取り組んだ他、これからのビッグデータ時代を見据えた人材養成における先駆的業績が高く評価されている。
	高橋 英一	料理人	本当の日本料理を正しく伝えたいという思いから設立した「日本料理アカデミー」では、初代会長としてフランスへ赴き現地のシェフに研修を行うなど、日本の技と心の発信に寄与。「京料理」の国の登録無形文化財登録にも尽力した。
	五代 田畑 喜八	染色家	文政時代から続く京友禅の染色家「田畑喜八」の名跡を五代目として継承。会長を務められた京都伝統工芸士会連合会では京都の伝統工芸界の発展に寄与したとともに、自身も染物の技を追求し、伝統を守りながら流行も取り入れ、今もなお新たな挑戦を続けている。
	森村 泰昌	美術家	約40年にわたって、「私」という普遍的なテーマで、古今東西の名画、往年の名優や歴史上の人物を題材としてセルフポートレート制作に取り組み、日本を代表する美術家として国内外で高い評価を獲得している。
功労賞	大野 俊明	日本画家	日本画の絵の具の美しさを際立たせる表現にこだわり、自然と対話して描かれた風景画は、透明感のある緑をはじめ、古典と丹念に向き合う中で見出した純粋な色彩で彩られる。また、「やまと絵」の表現技法にも関心を寄せるなど、日本画の真髄を追求し続けている。
	児玉 靖枝	画家	描くことで「存在の確かさ・不確かさ」や「世界へのまなざし」を掴もうとする思いから、外の世界との「接点」として具象画を描く。現在は、従来のパターンをあえて封印し、全く異なるアプローチを模索する試みを続ける他、芸術を志す多くの後進の指導にも尽力している。
	十四世 茂山 千五郎	大蔵流狂言方	江戸初期から約400年続く大蔵流狂言の名門・茂山千五郎家を継承。ジャンルや年代を超え、皆さんに和んでもらえる狂言を目指し、それぞれ個性豊かで活動も多彩な一門の“扇の要”として、柔軟な感性で狂言の新たな可能性に挑み続けている。
	高橋 匡太	美術家	まちのランドマークとなる建造物や空間に光の表現を付加する作品は、屋外における映像投影のパイオニアとして高く評価される。また、「ひかりの実」など観客とともに創造の喜びを分かち合えることができる表現を、楽しみながら模索している。
	イサオ・ナカムラ	ソロパーカッションリスト	ドイツのフライブルク国立音楽大学ソリスト科を卒業し、カールスルーエ音楽大学の教授に就任。後進の育成に力を注ぐとともに、ソリストとしての評価と名声を高め、世界各国の音楽祭に出演するなど音楽のジャンルを超えた活躍で高く評価されている。
	西野 康造	彫刻家	繊細かつ複雑に組み上げた金属造形が、空気の流れを取り込んで悠然と動くスケールの大きな作品で知られる。自然現象から着想を得た独自の表現は世界からも注目され、ニューヨークの4ワールドトレードセンターのアートワークにも起用される。
	万城目 学	小説家	奇想天外な“万城目ワールド”は映画やドラマにもなり爆発的な人気を博す。時を経て街の風景は変わっても、京都ならではの空気感は世代を越えて受け止められるという体感をもとに書き上げた『八月の御所グラウンド』は令和6年に直木賞を受賞。
	宮本 貞治	木工芸作家	琵琶湖の水面の波紋の美しさを木に表現するという着想から、独自の表現方法を確立。「流紋」「波紋」など、水の動きをモチーフとした作品群は、おおらかさと洗練さを併せ持つ作品として、高く評価されている。
奨励賞	石上 真由子	ヴァイオリニスト	8歳でローマ国際音楽祭のオーディションに合格、高校2年で日本音楽コンクールで2位を獲得。現在は、エネルギーあふれる表現力豊かなソリストとして全国的に活躍する、医師資格を持つ多才なヴァイオリニストとして注目を集める。
	川田 知志	美術作家	描かれた空間と不可分な存在である壁画を、ストラップ技法により移動させ、別の空間に置くことで元の空間の記憶を内包した鑑賞物として成立させた作品を制作し、注目を集めている。素材や技法に関する研究でも精進を続け、日々新たな挑戦を続けている。
	西條 茜	陶芸家・現代美術家	「身体」をめぐるテーマを核に作品を制作。近年は息を吹き込むなどパフォーマティブな要素を取り入れた作品を精力的に制作。直接触れて、身体と作品とが繋がることで生まれる新たな表現で注目されている。
	山本 雄教	美術作家	伝統的な日本画の技法を学ぶ一方で、従来の枠を超えた表現の可能性を探究。一円玉やブルーシート、米粒といった、身近な日常に存在するものを取り入れた独自のスタイルの作品が注目されている。

令和6年度 京都府文化賞専門家会議委員

氏 名	現 職 等
あまの ふみお 天野 文雄	大阪大学名誉教授
おおしま よしみ 大嶋 義実	フルート奏者 京都市立芸術大学名誉教授
おおたがき まこと 太田垣 實	美術評論家
ささき じょうへい 佐々木 丞平	京都大学名誉教授 京都国立博物館名誉館長
たてはた あきら 建 畠 哲	京都芸術センター館長
ふるかわ ひろのり 古川 博規	京都府副知事
やまぎわ じゅいち 山極 壽一	大学共同利用機関法人人間文化研究機構 総合地球環境学研究所長 京都市立芸術大学客員教授
れいぜい きみこ 冷泉 貴実子	(公財)冷泉家時雨亭文庫常務理事

(五十音順、敬称略)